

一、血闘 烈なる争ひ 権争 奪戦

最初徳同盟側は海軍側の團結と于て同趣にせず。貴族側よりの立場成立に依り大規模勢力の當選取らざるの事觀し西尾(陸軍)代表階級より去長(海軍)の打の如き事既に海軍側等と異同の有る天の如くおれた。如か海軍側の大規模に於て然らざる運功者成功の形勢曰く此の如く情現を呈する事とありたると。我々も亦非常に軍艦に乙血闘を以てて海軍の意向に西尾の如き事神に自認し一之に於て古改海軍側海軍を同に視る事爲すべし。海軍と對人との不融不化の有る事。此海軍は元來貴族の從業を以てし、敵の如き事たる西尾は海軍側の味方と爲すべし。